

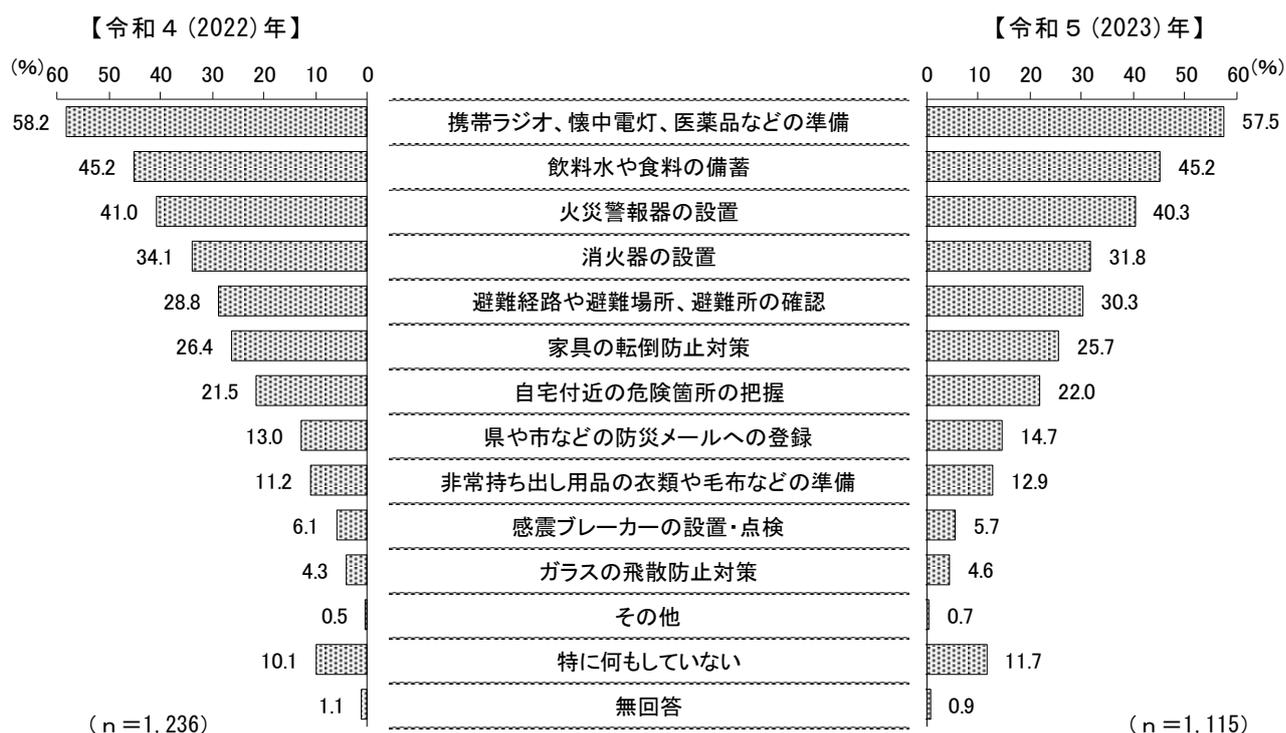
6 地域防災について

(1) 災害に対する備え

問18 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつかを選んでください。 [n=1,115]

1 消火器の設置	31.8%	8 感震ブレーカー（※）の設置・点検	5.7%
2 火災警報器の設置	40.3	9 避難経路や避難場所、避難所の確認	30.3
3 家具の転倒防止対策	25.7	10 県や市などの防災メールへの登録	14.7
4 ガラスの飛散防止対策	4.6	11 自宅付近の危険箇所の把握	22.0
5 飲料水や食料の備蓄	45.2	12 その他	0.7
6 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備	57.5	13 特に何もしていない	11.7
7 非常持ち出し用品の衣類や毛布などの準備	12.9	(無回答)	0.9

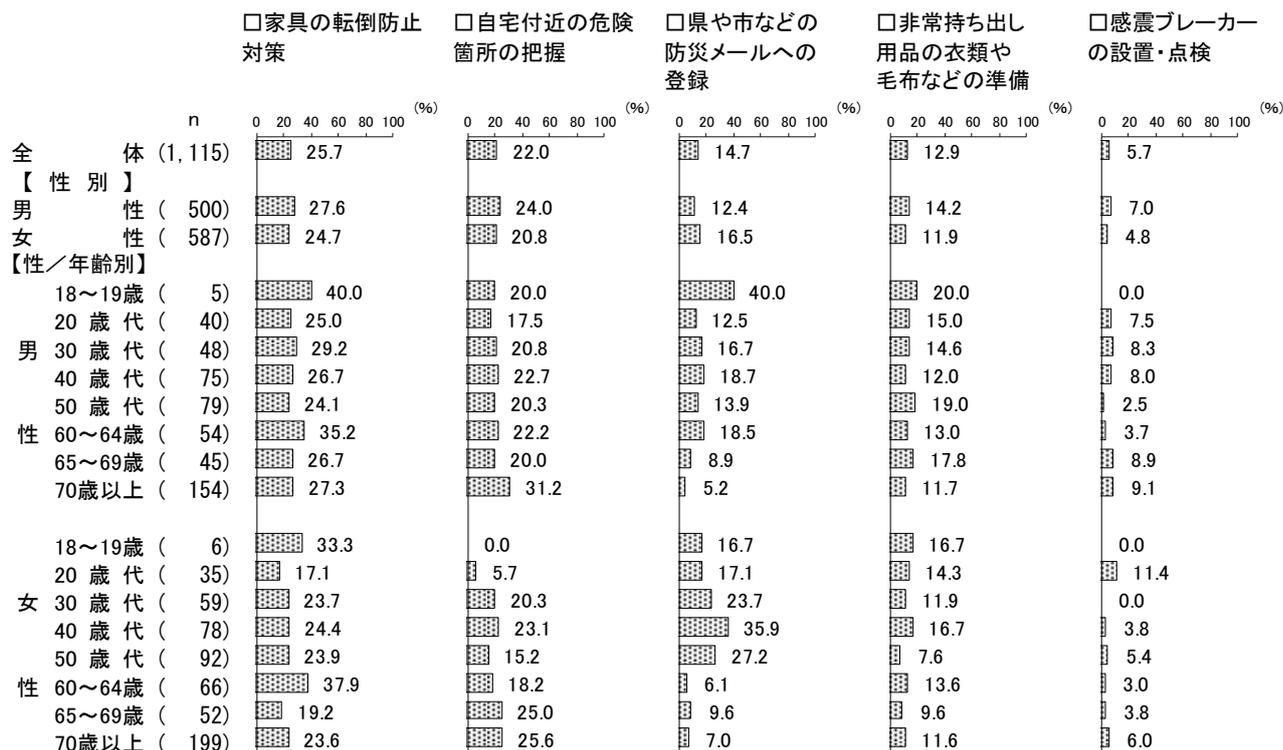
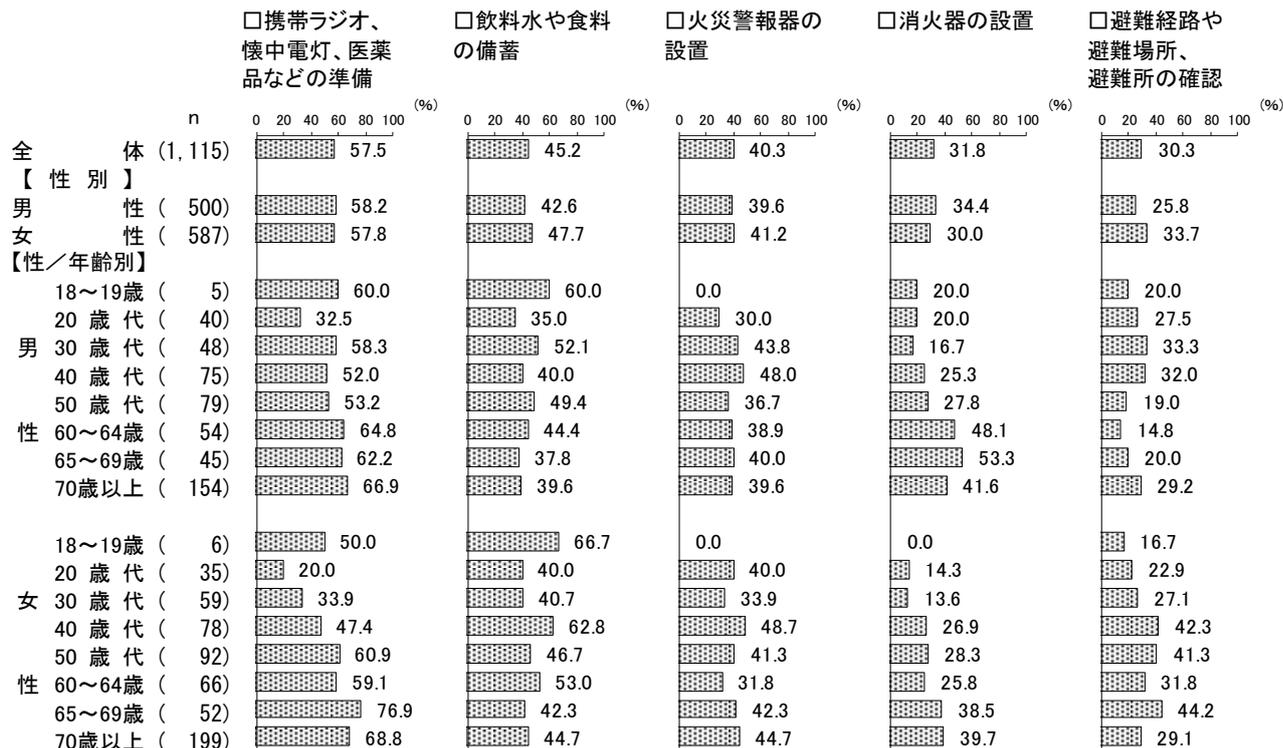
※ 感震ブレーカーとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に電力の供給を遮断する器具をいいます。



全体で見ると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」(57.5%)が5割台半ばを超え最も高く、次いで「飲料水や食料の備蓄」(45.2%)、「火災警報器の設置」(40.3%)、「消火器の設置」(31.8%)、「避難経路や避難場所、避難所の確認」(30.3%)の順となっている。

前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

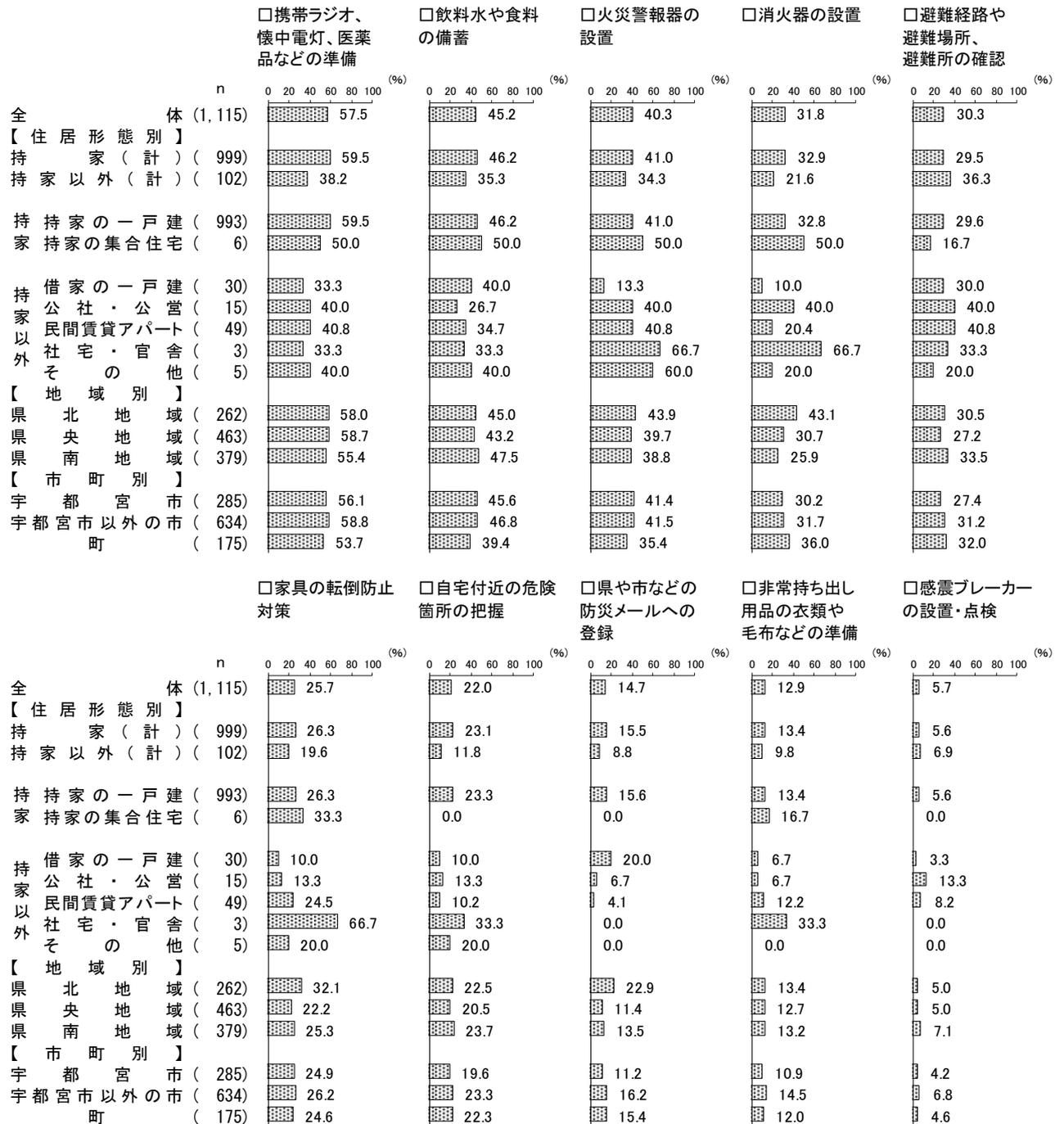
[性別・性／年齢別] (上位10項目)



性別で見ると、「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈女性〉(33.7%)が〈男性〉(25.8%)より7.9ポイント高くなっている。「飲料水や食料の備蓄」では〈女性〉(47.7%)が〈男性〉(42.6%)より5.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈女性65～69歳〉が76.9%と高くなっている。「飲料水や食料の備蓄」では〈女性40歳代〉が62.8%と高くなっている。「消火器の設置」では〈男性65～69歳〉が53.3%と高くなっている。「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈女性65～69歳〉が44.2%と高くなっている。「家具の転倒防止対策」では〈女性60～64歳〉が37.9%と高くなっている。「県や市などの防災メールへの登録」では〈女性40歳代〉が35.9%と高くなっている。

[住居形態別・地域別・市町別] (上位10項目)



住居形態別でみると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈持家(計)〉(59.5%)が〈持家以外(計)〉(38.2%)より21.3ポイント高くなっている。「消火器の設置」では〈持家(計)〉(32.9%)が〈持家以外(計)〉(21.6%)より11.3ポイント高くなっている。「自宅付近の危険箇所の把握」では〈持家(計)〉(23.1%)が〈持家以外(計)〉(11.8%)より11.3ポイント高くなっている。「飲料水や食料の備蓄」では〈持家(計)〉(46.2%)が〈持家以外(計)〉(35.3%)より10.9ポイント高くなっている。

地域別でみると、「消火器の設置」では〈県北地域〉が43.1%と高くなっている。「家具の転倒防止対策」では〈県北地域〉が32.1%と高くなっている。「県や市などの防災メールへの登録」では〈県北地域〉が22.9%と高くなっている。

市町別でみると、「飲料水や食料の備蓄」では〈町〉が39.4%と低くなっている。

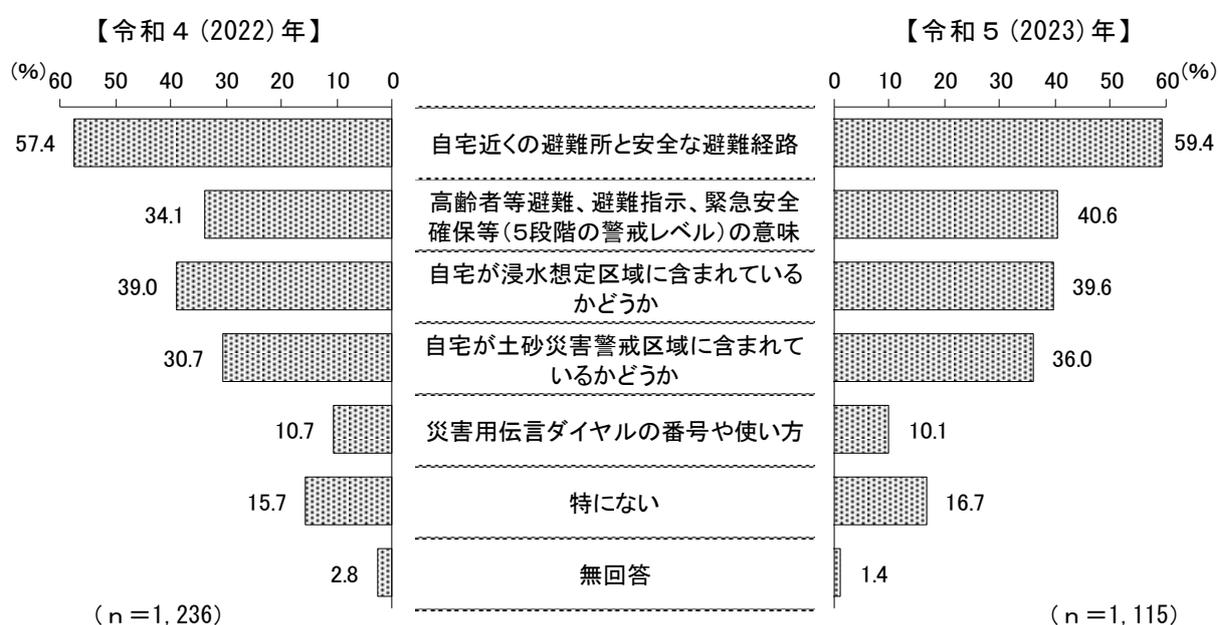
(2) 災害の際に必要となる情報について知っていること

問19 あなたは、災害の際に必要となる情報について、どのようなことを知っていますか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,115]

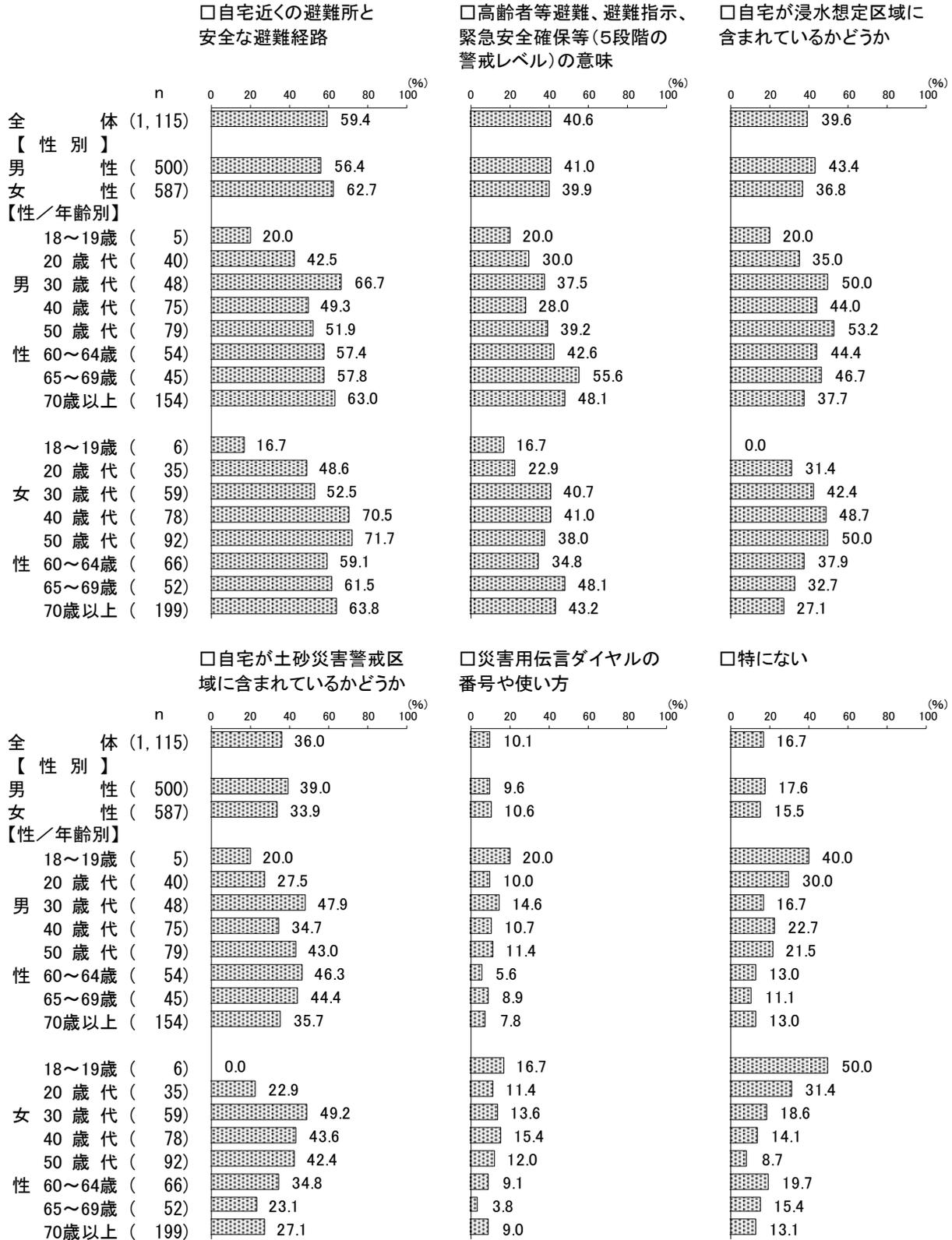
1	高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等（5段階の警戒レベル）の意味	40.6%
2	自宅近くの避難所と安全な避難経路	59.4
3	自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか	36.0
4	自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか	39.6
5	災害用伝言ダイヤルの番号や使い方	10.1
6	特にない	16.7
	(無回答)	1.4



全体で見ると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」（59.4%）が6割弱で最も高く、次いで「高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等（5段階の警戒レベル）の意味」（40.6%）、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」（39.6%）、「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」（36.0%）の順となっている。

前回（令和4(2022)年）の調査結果と比較すると、「高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等（5段階の警戒レベル）の意味」が6.5ポイント、「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」が5.3ポイント、それぞれ増加している。

[性別・性／年齢別]

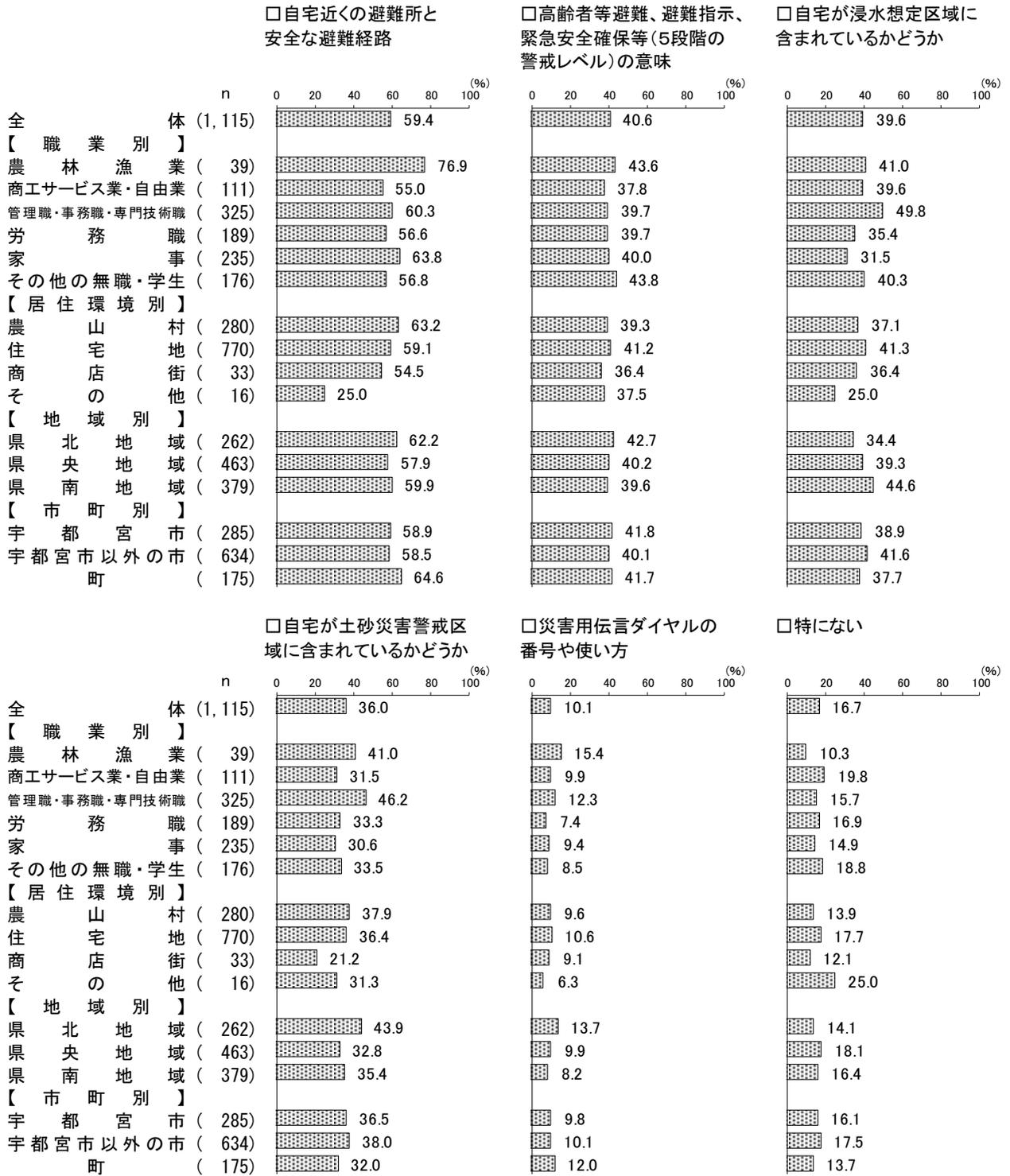


性別で見ると、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈男性〉(43.4%)が〈女性〉(36.8%)より6.6ポイント高くなっている。「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈男性〉(39.0%)が〈女性〉(33.9%)より5.1ポイント高くなっている。一方、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」では〈女性〉(62.7%)が〈男性〉(56.4%)より6.3ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」では〈女性50歳代〉が71.7%と高くな

っている。「高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等（5段階の警戒レベル）の意味」では〈男性65～69歳〉が55.6%と高くなっている。「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈男性50歳代〉が53.2%と高くなっている。「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈女性30歳代〉が49.2%と高くなっている。「特にない」では〈女性20歳代〉が31.4%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」では〈農林漁業〉が76.9%と高くなっている。「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が49.8%と高くなっている。「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が46.2%と高くなっている。「災害用伝言ダイヤルの番号や使い方」では〈農林漁業〉が15.4%と高くなっている。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

地域別でみると、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈県南地域〉が44.6%と高くなっている。「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈県北地域〉が43.9%と高くなっている。

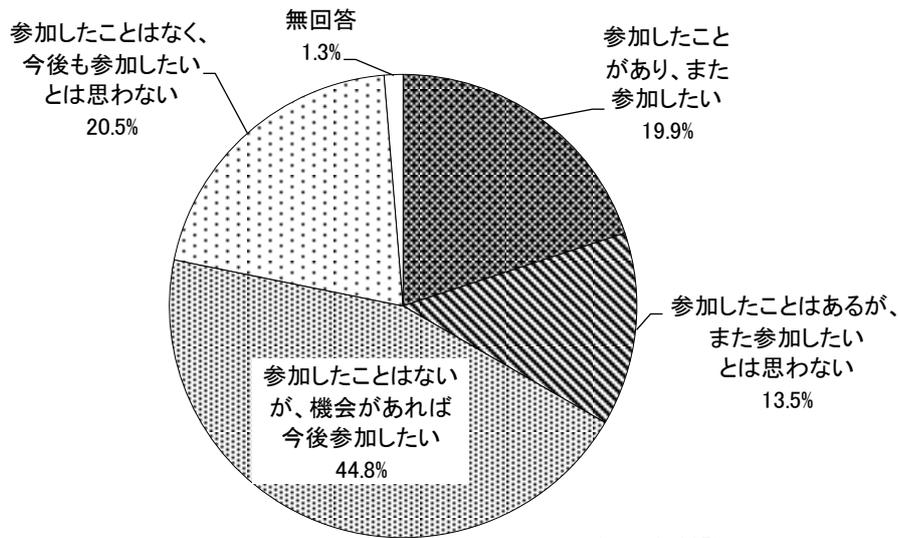
市町別でみると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」では〈町〉が64.6%と高くなっている。

(3) 防災訓練の参加状況

問20 あなたは、県や市町、自治会、企業などが行っている防災訓練に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

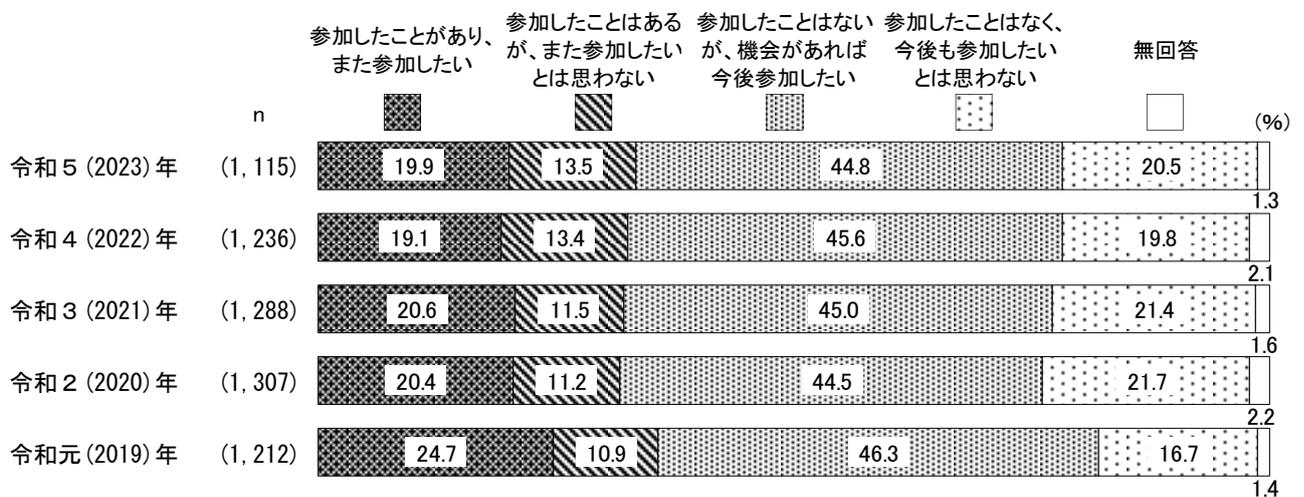
[n=1,115]

1	参加したことがあります、また参加したい	19.9%
2	参加したことはあるが、また参加したいとは思わない	13.5
3	参加したことはないが、機会があれば今後参加したい	44.8
4	参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない	20.5
	(無回答)	1.3



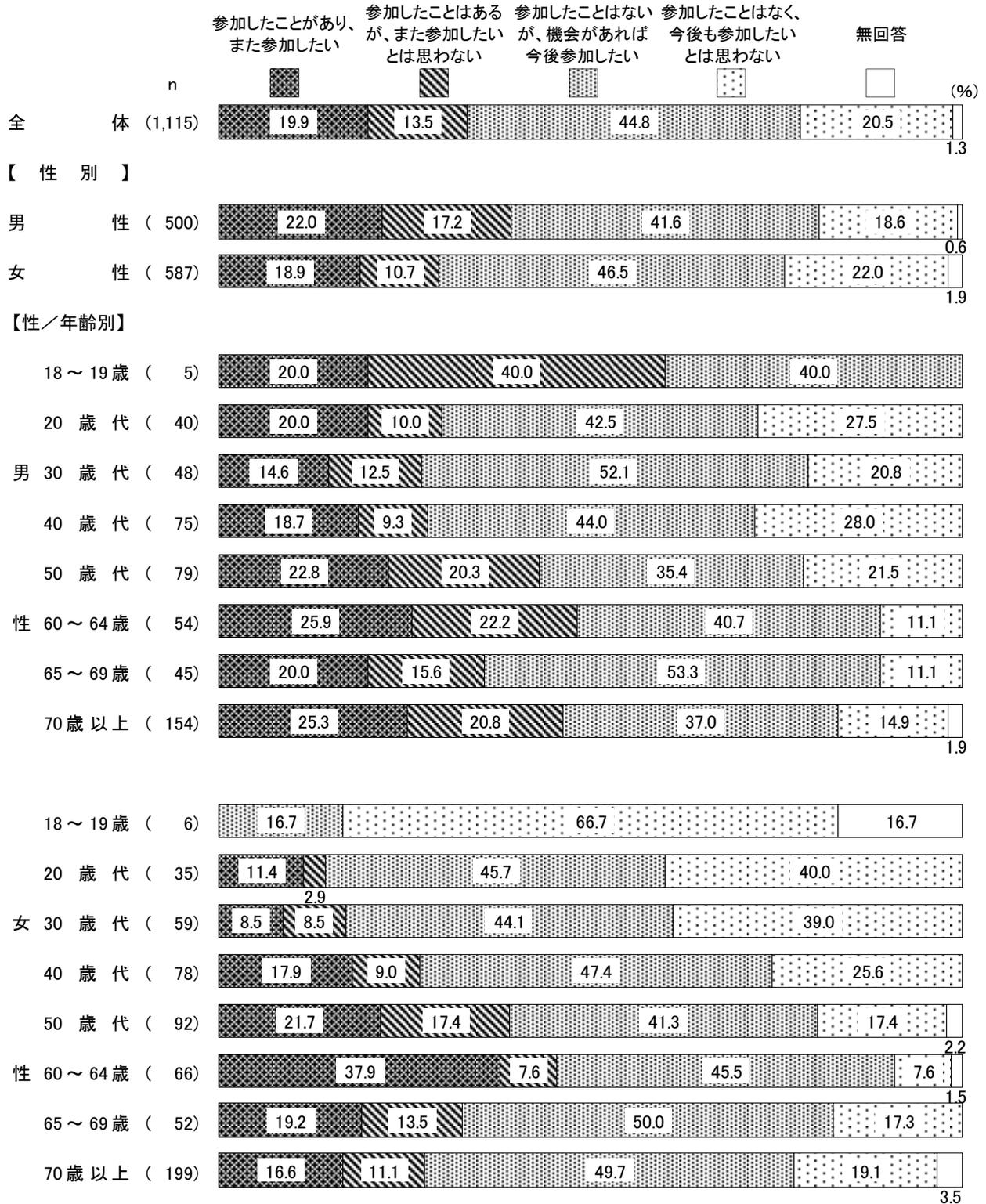
(n=1,115)

全体でみると、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」(44.8%)が4割台半ば近く、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」(20.5%)が約2割、「参加したことがあります、また参加したい」(19.9%)が2割弱、「参加したことはあるが、また参加したいとは思わない」(13.5%)が1割台半ば近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、前回(令和4(2022)年)と大きな傾向の違いはみられない。

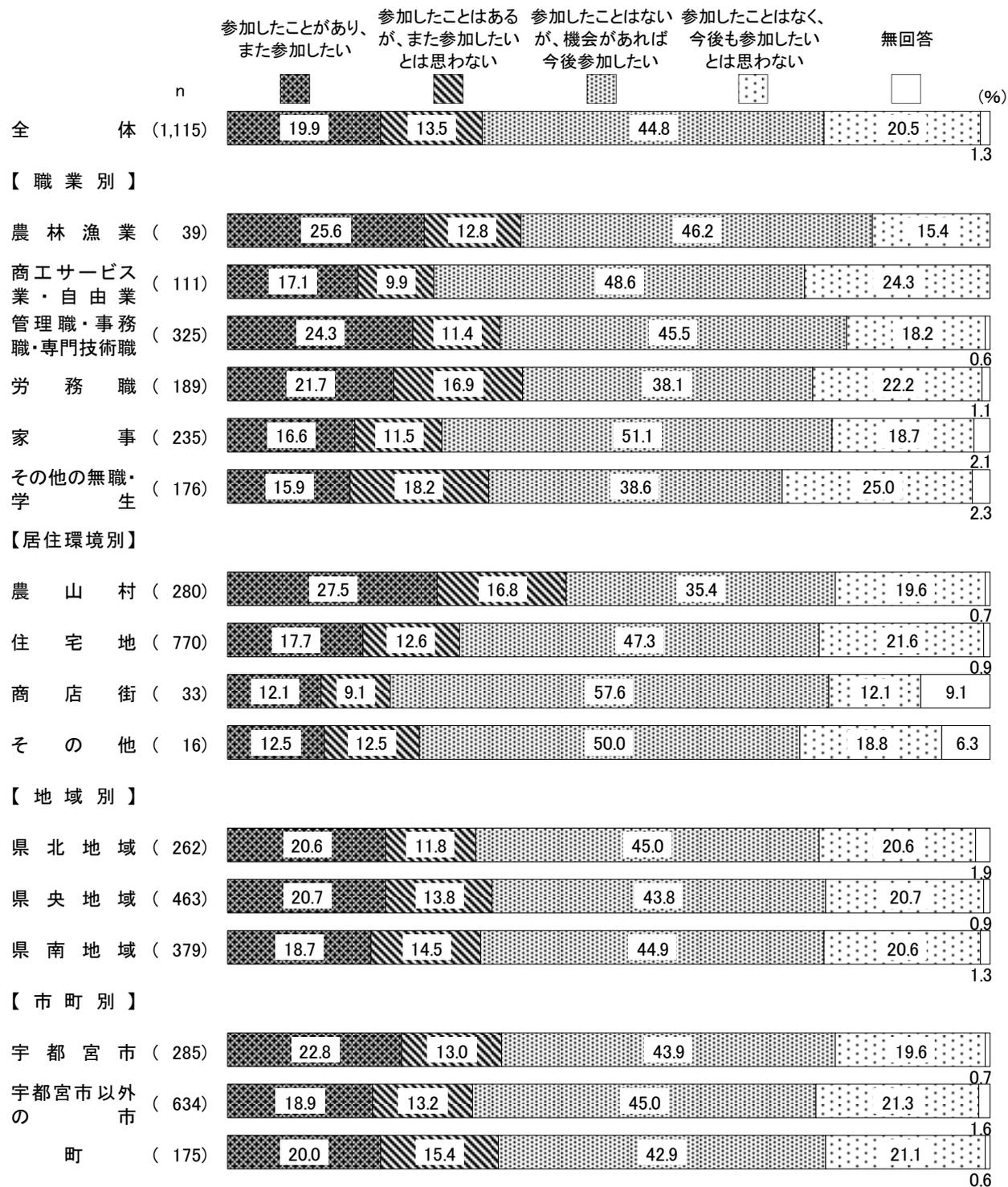
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「参加したことはあるが、また参加したいとは思わない」では〈男性〉(17.2%)が〈女性〉(10.7%)より6.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈女性60～64歳〉が37.9%と高くなっている。「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」では〈女性20歳代〉が40.0%、〈女性30歳代〉が39.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈農林漁業〉が25.6%と高くなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈家事〉が51.1%と高くなっている。

居住環境別でみると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈農山村〉が27.5%と高くなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈商店街〉が57.6%と高くなっている。

地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。